児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月14日　　事業所名　児童発達支援センター野の花

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	10	施設内だけでなく、近隣の公園も活用している。 以前子どもが怪我をした場所にはコーナーガードを使用して再発防止の対策をしている。	プレイルームや園庭が狭いが、各部屋・廊下・園庭を使用して子どもの人数を調整することで安全に過ごす事ができるように対応している。
	2	職員の配置数は適切である	8	5	配置基準以上の職員を配置している。	職員の休みや子どもの個別対応（配慮が必要な子や細かい支援など）により、職員が足りないと感じることがある。 そのため、クラス間での職員の連携や同法人の他事業所から応援に入ってもらい対応している。 また、クラス合同での活動等を行い安全の確保を行っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	2	運動をする部屋、机上課題を行う空間など活動場所の構造化をしている。 子どもの特性に合わせてイラストや順番表などを使用したり、療育に支障がないように必要最小限のものを掲示している。 各部屋に内線があり、速やかな情報共有が可能。	パーテーションは倒れた際の危険が予測される為、段ボールで簡易パーテーションを作成し使用している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	1	整理整頓を日々行っている。 毎日保育後に、清掃・消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	1	毎日クラスの職員同士で子どもの様子を共有し合うことができている。 特記事項に関しては児発管も交えて参画し、全職員に共有している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14		全職員に周知し、改善に取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	3		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14		事業所内研修、同法人研修、外部研修に参加しており、全職員が資質向上の研修に参加できている。	子どもの直接支援に関わる研修を全職員が受けることができると良い。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14		クラス会議を開き、ニーズや課題をクラス職員と児発管で分析し、計画の作成を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	1		全職員がガイドラインの内容を把握することは出来ていないのではないか。 引き続き、共有の時間を設ける。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14		クラス会議にて児童発達支援計画の内容の共有を行い、支援の統一を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	14		各クラスごとの職員が合同で、子どもの特性に合わせて活動内容の詳細などを決めている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14		週間予定をたて、季節や子どもの特性に合わせて活動を行っている。 同じ活動でも子どもの反応の変化を見たり、子どもの活動への理解も深めている。また、活動の振り返りを職員間で共有している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	14		子ども一人一人の状況や特性に合わせて個別・集団での目標を計画している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	1	毎日朝礼で活動内容の確認を全職員で行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	2	終礼で活動の振り返りなどの共有を全職員で行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	2		記録を取るだけで終わってしまっているところもある。今後も支援の検証・改善につなげる仕組みを作ることが必要。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12	2	児童発達支援計画における策定会議だけでなく、定期的にクラス会議を開き子どもの状況などをクラス職員と児発管で話し合っている。	保護者との情報共有を十分にするために、日々の連絡帳や送迎、電話連絡時に丁寧な聞き取りを引き続き心掛ける必要がある。
関係機関や保護者との連	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	1	相談支援事業所との連携は照会文書と電話が中心。 特記事項があれば逐一情報共有をしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	5	必要時には、関係機関と情報共有を行っている。	緊急時に関係機関介入がスムーズになるよう、引き続き連携を図る必要あり。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象児なし	
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	3	転園がある際には、転園先や関係機関との情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	2	対面・書面引継ぎを行っている。また、就学先が当センターに実際に子どもの様子を見に来られる際の受け入れや引継ぎも行っている。 同法人の放課後等デイサービスの事業所においては、直接支援に入り引継ぎをしている。	卒園時及び入学時の引継ぎはしているが、それ以降はほぼ連携なし。就学先から問い合わせがあった際には、職員間で確認し合い電話連絡で対応している。 今後も就学先から問い合わせがある際には対応を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
携関係機関や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	1	複数の施設が出席する単独通園研修に参加し、各園の支援や運営の状況について情報共有を行っている。 他センターの専門職（ST）に来てもらい、言語相談や給食時の助言などをして頂いている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		14		感染症対策のため未実施であったが、今後実施に向けて検討し、子どもに交流の機会を設ける必要がある。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	12	相談支援連絡会に参加し、連携を図っている。	感染症対策のためほぼ未実施であったが、今後参加に向けて検討し、関係機関や地域との連携をとる必要がある。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	1	毎日、連絡帳やバス停で情報共有を行っている。連絡帳のフリースペースは広めに設けており、家庭からも気軽に相談事を書いて頂けるようにしている。 また、特記事項があれば電話連絡での情報共有も行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	8	新入園児の保護者に対して、外部の専門職（ST）による学習会を実施している。	左記の学習会以外の実施ができていない為、保護者のニーズや希望を基に学習会の開催を検討する。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1	入園説明会時に説明。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14		年に3回個別面談を実施しており、その中で同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14		保護者からの相談対応は必ず行っており、職員が気付いたことがあればセンターからも保護者に連絡を入れて対応をしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	13		保護者会の設立無し。 保護者同士の交流をとりたいとの要望もある為、今後保護者と一緒に検討する必要あり。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14		保護者から相談などがあった段階で児発管と施設長が情報共有を行い、現場の職員とも相談や申し入れの内容を確認しながら対応している。 必要時には、全保護者に通知も実施している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14		毎月、園だよりを発行している。また、メール配信を導入しており、周知事項に関して迅速に保護者に伝えることができている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	14		個人情報の取り扱いに注意が必要な書類は、施錠のできるキャビネに保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	10	保護者学習会時に地域の公民館を使用したり、外部施設での親子行事を実施している。	感染症対策や施設の収容可能人数の点で未実施であったが、今後行事の際には出来る限り地域住民にボランティアを募ることや招待をすることを検討する。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14		職員と保護者がいつでも確認することができるように、園内にマニュアル等を掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	2	半年に1回、地震や火災を想定した避難訓練を活動の中で実施している。	地震や火災以外に、不審者の侵入や洪水・浸水なども想定して避難訓練を実施する必要がある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	1	センターで服薬が必要な際は、服薬指示書を提出して頂いていおり、全職員で情報共有している。 予防接種記録は毎年保護者に更新して頂いている。 その他健康面などは日々、保護者と情報共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14		食物アレルギーの対応が必要な子どもについては、年に1回診断書の提出をして頂いている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	1	ヒヤリハット案件が発生した場合には、報告書を作成し全職員が回覧している。また、朝礼・終礼時に対策や再発防止などについても情報共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14		虐待防止研修に全職員が必ず年に1回参加している。その際に、「虐待の芽リスト」を用いて虐待に対する意識確認を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11	3	身体拘束を行う事案なし。	身体拘束が必要になった際には、身体拘束適正化委員会を開催し、規定に基づき対応する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。